

恵建管 第1-928号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 金井道夫様

北海道恵庭市長 中島興世



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付（国道企第37号）で依頼のありました標記について、別添のとおり回答しますので、よろしくお取り計らい願います。

〔 建設部主幹（事業調整担当）
0123-33-3131（内線2450） 〕

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- 地方においては、財源不足の自治体がほとんどである。
以前は道路整備の補助率が2/3であったが、5.5/10、1/2と補助割合が減少している状況である。
しかしながら、住民生活は従前より高度となり、道路においても砂利道から舗装道、舗装道から歩道の設置、歩道の設置からバリアフリー化と進み、多くの整備要望がなされている状況であり、現在の補助率では、国の負担を少なくし、さらに国が出来ないことを地方にさせるような感がある。
従って、今一度、補助事業の補助率の嵩上げや新たな補助制度、起債制度の創設が必要であり、併せて地方道路整備臨時貸付金制度の恒久化が必要である。
- 道路は、整備の有無に関わらず、維持管理が生じ、毎年維持管理費の増加の一途である。
道路造成にあたっては、補助金等があるが、維持管理に係る費用についての補助金はない状態である。
地方道路行政にいくばくかの余裕をもたらせ、安心・安全な道路づくりをするため、維持管理費等に対する補助金の制度化や財源を特定し、地方財源の充実強化を図るべきと思われる。
- 高度経済成長期に数多く建設された構造物の劣化状況（経年変化）に対し、コンサルタントへの診断委託により、劣化や欠陥を早期に発見し、適切な補修工事の対応により構造物の長寿命化を図る必要がある。このため、経年診断や補修工事の国庫補助制度の拡充を願う。

②-1 地域の現状と抱かえる課題

○現状

- ・ 既存市街地は、道路網整備や駐車場が不十分で車社会への対応の遅れにより郊外での住宅開発や大型店の進出に伴い、人口や購買力の流出が続き、市街地中心部や駅周辺部においては空洞化が進行している。
- ・ 維持管理においては、すでに整備された橋梁や道路本体などに耐用年数を越える施設が今後増大する見込みである。これに対し、橋梁においては、一定の規模の橋梁に対する長寿命化計画策定に補助制度が創設されたが、本市には基準に満たない橋梁が数多くあり、その対策に苦慮している。また、地方交付税交付金の減や市税収入の減から維持管理費が削減されている現状である。さらには、北海道の地域特性として冬季の除雪及び路面凍結対策に係る費用が地方道路税等の道路特定財源の大半を占めており、これらの財源確保に苦慮している。

○課題

- ・ 人口の流出により、市街地中心や駅周辺部には老朽化した空き店舗・空き地が点在し、産業の衰退傾向にある。一方、郊外に拡充した新市街地の道路など公共施設維持管理（特に除排雪）の負担が増大している。
市街地再生のため、狭隘な駅前広場の整備や円滑な道路利用を図るとともに、利便施設の誘致により賑わいを再生する必要があるが、既存市街地における道路交通網整備は建物移転などによる整備コストが非常に高く、逼迫する地方自治体の財政事情下で市街地再生の推進が難しい。
- ・ 地方自治体の財源不足に対する措置として、維持管理費等にかかる費用について財源を特定し、地方財源の充実強化を図る必要がある、また、橋梁の老朽化に伴う架換えや耐震補強等の道路ストックの計画的な維持修繕が必要である。

②-2 地域の目指すべき将来像

- ・ 恵庭市では、第4期恵庭市総合計画で掲げた将来都市像を実現するため、6つの基本目標を掲げ、その一つに「生活環境が整い安全安心でゆとりあるまちづくり」を掲げ、着実な都市基盤の整備と安全で安心して快適に暮らせる生活環境の整備、さらにはゴミ減量化とリサイクル等、環境への付加の少ないまちづくりが求められていることを受け、生活環境が整い、いつまでも住み続けることができる安全安心でゆとりあるまちを市民と行政との協働で創っていくことを目的としている。

その基本目標を実現するための基本方針として、道路橋梁の計画的な整備を進めると共に道路改良・補修に努め、安全な道路環境と利便性の向上を図るため、広域幹線道路の整備や広域サイクリングロードの整備を関係機関と連携して進めることとし、また、都市の骨格となる幹線道路の整備及び道路改良や歩道の整備により安全な交通の確保と沿道の環境整備を進め、併せて、河川改修等に伴う橋梁の整備を推進することとしている。また、全ての人が利用しやすい様に配慮した公共施設の整備によるユニバーサルデザインの普及・推進を図るため、駅を中心とする重点地区を定め特定道路のバリアフリー化を図る。

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・国道 36 号(千歳バイパス)の整備促進 ・西 6 線道路の道道昇格 ・羊ヶ丘通の整備促進 ・道々札幌恵庭自転車線の整備促進 ・千歳川流域の広域サイクルネットワーク機能の促進	・国道 36 号などの整備により、近隣市町村と恵庭市との連携による地域活性化や物流経路の強化を図る。また、広域自転車道の整備による効果としては、CO2 を出さない移動の手段として自転車利用が見直されていることに加え、地域間の交流や活性化が期待できる。	
・都市交通の快適性、利便性の向上	・都市計画道路の整備 ・生活道路の整備 ・石狩川流域千歳川支流漁川、島松川の河川改修に伴う橋梁整備 (南 12 号橋、南 9 号橋)	・幹線道路網の整備により市街地の一体化を計ることができると共に、生活道路の整備により既存市街地の土地利用の向上と沿道住民の生活環境の向上を図ることができる。	

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・少子・高齢化社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成 ・計画的・効果的な維持管理や更新の推進	・恵庭市交通バリアフリー基本構想に伴う特定経路の整備(恵庭駅前地区・恵み野地区) ・通学路の整備 ・橋梁を含めた道路構造物等の劣化に伴う経年診断や修繕工事	・身体障がい者及び高齢者だけでなく、全ての人の安全性・利便性を確保した歩行者空間の整備を図ることができ、また、通学路の整備により児童が安心、安全な通学ができる。 ・専門家への診断委託により早期に劣化や欠陥を発見し、適切な補修工事の対応により構造物の長寿命化が図られると共に新たな改築よりも経費の節減が図られる。	